

量子論電子工学 2014 年前半部（掛谷担当）演習問題

2014/06/03

提出先: [takeya@kuee.kyoto-u.ac.jp](mailto:takeya@kuee.kyoto-u.ac.jp)

提出期限: 学期末（あとで指定）

1. 質量  $m$ , 固有振動数  $\omega$  の一次元調和振動子のハミルトニアン

$$\mathcal{H}_0 = -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} + \frac{m\omega^2 x^2}{2} \quad (1)$$

から得られる Schrödinger 方程式の固有値  $E_n^{(0)}$ , 固有関数  $u_n^{(0)}$  はそれぞれ以下の通りである

$$E_n^{(0)} = \left(n + \frac{1}{2}\right) \hbar\omega \quad (n = 0, 1, 2, \dots), \quad (2)$$

$$u_n^{(0)} = N_n H_n(\alpha x) \exp(-\alpha^2 x^2/2). \quad (3)$$

ただし,  $N_n = \left(\frac{\alpha}{\sqrt{\pi} 2^n n!}\right)^{\frac{1}{2}}$ ,  $\alpha = \sqrt{m\omega/\hbar}$  であり,  $H_n(z)$  は Hermite 多項式で, 漸化式

$$2zH_n(z) = 2nH_{n-1}(z) + H_{n+1}(z) \quad (4)$$

および直交関係

$$\int_{-\infty}^{\infty} H_n(z) H_m(z) e^{-z^2} dz = 2^n n! \sqrt{\pi} \delta_{mn} \quad (5)$$

を満足する. ここで,  $z$  は実数,  $\delta_{nm}$  はクロネッカーのデルタである.

(a) 摂動として,  $\mathcal{H}' = ax^2$  が加わったときを考える.

i. 1 次の摂動によるエネルギーのずれ  $E_n^{(1)}$  を求めよ.

ii. 厳密解と比較せよ.

(b) 摂動として,  $\mathcal{H}' = ax^4$  が加わったとき, 1 次の摂動を考慮すると隣接する準位のエネルギー間隔が等しくなることを示せ.

2. 水素原子のシュレディンガー方程式を

$$\left(\frac{\mathbf{p}^2}{2m} - \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r}\right) \psi(\mathbf{r}) = E\psi(\mathbf{r}) \quad (6)$$

とおく.

(a) 極座標を取り, 波動関数を変数分離して  $\psi(\mathbf{r}) = \chi(r)Y_{lm}(\theta, \phi)/r$  とおくと, 動径波動関数は以下の微分方程式を満たすことを示せ.

$$\left[-\frac{\hbar^2}{2m} \left(\frac{d^2}{dr^2} - \frac{l(l+1)}{r^2}\right) - \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0 r}\right] \chi(r) = E\chi(r) \quad (7)$$

(b) 束縛状態の波動関数は

$$\chi(r) \sim r^{l+1} \quad (r \rightarrow 0) \quad (8)$$

$$\chi(r) \sim \exp[-\sqrt{-2mE/\hbar^2} \cdot r] \quad (r \rightarrow \infty) \quad (9)$$

であることを示せ.

(c) 新しい変数  $\rho = \kappa r$  (ただし,  $\kappa = \sqrt{-2mE/\hbar^2}$ ) を導入し,  $\chi(\rho) = \rho^{l+1} e^{-\rho} w(\rho)$  と書くと,  $w(\rho)$  は次の微分方程式を満たすことを示せ.

$$\left[ \rho \frac{d^2}{d\rho^2} + 2(l+1-\rho) \frac{d}{d\rho} + (\rho_0 - 2(l+1)) \right] w(\rho) = 0 \quad (10)$$

(d) 級数展開によりエネルギー固有値を求めよ.

3. (a) 水素原子の動径波動関数を  $n = 1, 2$  の場合に求め, その概形を図示せよ.
- (b)  $Ze$  の電荷を持つ原子核と 1 個の電子からなる水素様原子において,  $l = n - 1$  のとき, 動径確率密度が最大になるような  $r$  の値を求めよ.
- (c) 水素原子の基底状態に対して, 同様な  $r$  の値を求めよ.
4. (a)  $[\mathbf{L}, x^2 + y^2 + z^2] = [\mathbf{L}, p_x^2 + p_y^2 + p_z^2] = 0$  を示し,  $H = \mathbf{p}^2/2m + V(r)$  のとき  $[\mathbf{L}, H] = 0$  となることを示せ.
- (b)  $[L_{\pm}, H] = 0$  のとき,  $H\psi_{nlm} = E_{nl}\psi_{nlm}$  ならば,  $H(L_{\pm}\psi_{nlm}) = E_{nl}L_{\pm}\psi_{nlm}$  を示し, 固有値  $E_{nl}$  は  $2l + 1$  重に縮退していることを示せ.

以上